

# 幼児教育長期派遣通信 2学期号

発行 令和6年1月19日

熊野町立熊野第三小学校 河久 千景（派遣園：社会福祉法人光生会保育所ひかり学園）

## 1 2学期の研修内容

- (1) 園内研修→園児観察・園内環境整備・園行事（運動会、芋ほり、造形展）参加など
- (2) 園外研修→幼児教育理解に係る研修会・接続に関わる研修会・長期派遣研修報告会など

## 2 研修を通して

私は、園外研修「令和5年度広島県乳幼児期の教育・保育研究協議会」において、香川大学松井剛太准教授の講演から、「理解の入り口」という言葉を学びました。「理解の入り口」は、学びを習得する時、「読む・書く」という作業だけではなく、友達と一緒に作業することで学ぶ、あるいは実際に経験して学ぶなどの「学びの入口」とも言えるのではないかと考えました。子供たちは遊びから多くのことを学んでおり、その学び方は多様で、その子に合った学び方があります。

講演から、園所での子供たちの遊びを、「理解への入口」を切り口に見ていくことで、小学校の教科学習の導入に活かせることが分かりました。そこで、次の「理解への入口」を参考に、派遣園で行われている子供たちの遊びを整理しました。

### 子供たちのドキドキワクワク いろいろな理解の入口を発見!!



#### ① 「説話的」理解への入口（読む、聞く、書く、話す）

絵本や図鑑を聞いたり読んだり、お友達やお家の人に手紙を書いています。



#### ② 「論理的」理解への入口（数字、推論）

捕まえた幼虫の数や掘った芋の数を知りたくなって調べたり数えたりして遊んでいます。



#### ③ 「根拠的」理解への入口（背景、根拠に疑問をもつ）

自分達で育てたスイカをみんなで分けるにはどうすればいいのだろうか？食べられない人が居て良いのだろうか？など、じっくり自分事として話し合い、納得解を出しています。

#### ④ 「審美的」理解への入口（美術的感覚から捉える）

「光に当たるときれいだな？」「混ぜると新しい色に変わる」など、美しいものを見付けたり気付いたりしたことが嬉しくなっています。



#### ⑤ 「経験的」理解への入口（個人的な経験をしながら）

おばあちゃんに手紙を届けたくてポストに書いた手紙を自分で落とそうとしています。



#### ⑥ 「共同的」理解への入口（他者との共同作業から）

築山から樋を繋げて水路を作り、水を流し友達と泥水で遊んでいます。コーヒー牛乳製造機の完成！



### 考察

子供が遊びの中で学ぶ時、こんなにもたくさんの入口が隠れています。子供たちがドキドキワクワク夢中に取り組んでいるのは、このような多様な学び方と深く関わっているのではないのでしょうか。教師が、こうした入口を意識して授業構成を考えることで、子供たちは自分に適した学び方で、よりドキドキワクワクした主体的な学びができるのではないかと考えます。

色水遊びで!! いろいろな「理解の入口」から学ぶ子供たちを発見!!



【事例】食紅を使った色水とベビーオイルを使った色水遊び（年長組）



①（「説話的」理解の入口）先生が漏斗の使い方教えてくれたよ。こぼれんのと！

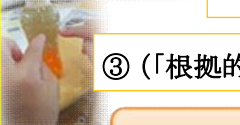
⑥（「共同的」理解の入口）「この色、どうやって作ったん？」「これとこれ、混ぜたらできるよ！」



②（「論理的」理解の入口）ねえ、色水から顔を見ると顔がこんなに横に伸びるよ。



④（「審美的」理解の入口）下から光に当てて覗くとキラキラしてきれい。



⑤（「経験的」理解の入口）前の色水みたいに、黄色と赤色を混ぜると、オレンジ色になるよ。

③（「根拠的」理解の入口）あれ？前は色水が混ざったのに、今日はなんで泡が出て混ざらないのだろう？

子供たち一人一人の「理解の入口」は、異なります。そのため、子供理解が大切です。



子供たちのドキドキワクワク いろいろな授業構成を発見!!



子供一人一人を大切に  
した授業づくりへ

【教師はこの流れで授業を構成していきます】

- ① 目の前の子供たちの姿を手掛かりに一人一人の子供の「理解の入口」を探る。
- ② それぞれの「理解の入口」に応じて単元が展開するイメージを思い描く。
- ③ 単元構想の実現が可能かどうか検討する。

「おおきなかぶ」国語科

教科書を読む  
絵本を読んで読み  
比べる

「説話的」  
理解の入口

皆で、役  
を決めて  
やってみ  
る

「共同的」  
理解の入口

カブに触  
れたり、  
食べたり  
植えたり  
する

「経験的」  
理解の入口

?

教師は子供基点にいろいろな  
入口を想定して各教科の授業を  
構成してみます。

3 まとめ

教師には、この子にはどういう「理解の入口」が合っているか、このクラスにはどういう「理解の入口」が合っているか、子供たち一人一人を大切に授業づくりをしていくことが必要であると感じました。学校に子供が合わせるのではなく、目の前の子供たちに合わせて教室（学校）が常にアップデートしていくことが必要です。子供一人一人を大切に授業づくりができるよう日々研修に励んで参ります。

〈乳幼児教育支援センターより〉

幼稚園教育要領解説では、「幼児が発達に必要な体験を得るための環境構成や教師の関わり方も、幼児を理解することにより、適切なものとなる」と示されています。小学校以降の教育においても、教師は、目の前の子供たちが「どのような経験を積み重ねてきたか」「今、何に興味をもち、何を感じているのか」等の子供理解に努め、それに応じた支援をしていくことが大切です。